

ど明かりが無い分自然の贈り物がたくさん。星がいっぱい見えるし、木や植物がたくさんあり水もきれいなのでしょう、ホテルがあっちこち飛んでいました。

翌朝村の男性や PFP のニック達が引き渡しのセレモニーの準備の後、集会所に村人が集まってきました。皆はこの事業によって「遠くに水を汲みに行く必要がなくなり楽になった。」「清潔な水を飲めるので体調不良や下痢なども減った。」と異口同音に感謝の言葉を伝えます。日本では蛇口から水がでることが当たり前のこと、でもここでは喜びとして語られるのです。

しかし、自立のための収入の確保はまだ先のように厳しいですし、衛生面の指導もまだまだこれから必要のようです。またこんな遠い土地から学校に通う困難もあり、一度村を出て町の生活を経験すると村に帰らない者も少なくないとか。

行くのに大変な思いをした村なので、買い物に行くのも病気になった時どうするのだろうといろいろ考えてしまいます。HANDS と現地での活動の意義を感じた村でした。

COWHED の店が湖岸にあるセブ湖に浮かぶ島ティバウ島に行くにあたって、当初借りる予定のボートが修理中とのこと。それが使えない場合は行けないかもしれないと言われたけれど、町との協働の事業のおかげでしょうか。地元のホテルがボートを貸してくれ、市の観光・環境局の人も同行してボートで15分くらい乗っていきました。舟から見ると、島にはたくさんの植物が茂っていて、なんと素敵でした……。でも島の土地は焼き畑や、他のものを植えたためにもととの植物がかなり減ってしまったとのこと。それを再生するためと生態系の保持のために植えた在来の植物、収入向上のため栽培しているバナナを見ました。小さな島ですから、住民が増えると現実問題として即収入と結びつく物を考えがちです。しかし、きれいな湖の中の島のこれからを大事に思って、生態系を守る活動も継続して欲しいと思います。



フィリピン台風 30 号被災地支援 (日比 NGO ネットワーク事務局 西島恵 ((特活) アジア・コミュニティ・センター21))

日比 NGO ネットワーク (JPN) は、フィリピンの NGO 「フィリピン農村人材開発パートナーシップ (農村開発を進める NGO の連合体、PhilDHRRA)」を通じ、「西サマル州開発財団 (WESADEF)」が実施する東サマル州被災地での緊急物資配布活動を支援しています。JPN からの資金で 2 回の配布活動を行うことができました。沢山のご支援に感謝いたします。

1 回目の配布活動は 2013 年 12 月 18 日に行われ、東サマル州ギナプンダン行政区のサンタ・マルガリータ・バラングイ 169 世帯とマビニ・バラングイ 52 世帯、計 221 世帯に食糧や台所用品などを配布しました。サンタ・マルガリータ・バラングイは、行政区の中央を走る国道から 10 キロメートル離れた沿岸地域で、多大な被害を受けた地域です。マビニ・バラングイも国道から 4 キロメートル離れた農業を主体とした丘陵地帯で、住宅のほか集会所や幼稚園などが被害を受けたそうです。

2 回目は 2013 年 12 月 29 日、同州ラワン行政区ベタオグ・バラングイ 169 世帯、スーラット行政区 25 世帯、ギアン行政区 7 世帯、計 201 世帯に食糧や住宅修復のための物資の配布を行いました。ラワン行政区とスーラット行政区では、食糧や台所用品などの救援物資を配布しましたが、ギアン行政区では、台風で住宅を流された世帯が波板、板、釘、金づちなどの住宅修復のための資材を必要としており、これを提供しました。多くの人が未だに避難所やテントでの生活を余儀なくされており、中には瓦礫を使って仮の住宅を建設している人もいるとのこと、安全な住居の確保が必要となっています。



東サマル州は大雨、強風、高潮で甚大な被害を受けました (撮影 2013/11/22)

台風発生後、2ヶ月が経った現状と今後の支援活動について

商店が再開し、経済は回復しつつあり、人々は生活を再建し始めています。政府や様々な支援団体の活動も少しずつ復旧、復興支援に移行しています。「キャッシュ・フォー・ワーク (労働の対価として現金などを支払う)」というプログラムを通じて、収入を得ている人も出てきたとのこと。しかし、食糧、住居、生計手段の確保は未だ人々の喫緊の課題で、まだまだ多くの校舎、行政施設などの修復や再建が必要となっています。遠隔地では瓦礫が今なお散在しており、適切な処理がされていないそうです。

漁網の配布など、生計手段の回復に向けた支援が始まっていますが、数は限られているとのこと。漁民は船や漁網、農民は、種や農具、水牛などを求めており、人々は生計手段の回復こそ、今必要な支援だと言っています。今後 WESADEF では種の配布など、生計手段の再建活動に着手していく予定です。



ギナプンダン行政区での救援物資配布の様子。写真右は現地の NGO「WESADEF」の事務局長エマ氏(2013/12/18)